被災地域における見守りバス運行実証事業の概要

応募様式A

穴水町　新・地域公共交通復興共創プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	穴水町
事業実施地域	穴水町
共創の類型	官民共創　・　他分野共創
他分野共創の類型	地域・移住　・　観光・まちづくり
共創パートナー	公益社団法人　穴水町シルバー人材センター、穴水町地域公共交通協議会、 主な目的地となる病院・商店等、販売事業者（ディーラー）
運行形態	①デマンド交通 ②許可・登録を要しない輸送（無償運送）
運行主体	公益社団法人　穴水町シルバー人材センター

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

○　令和６年能登半島地震により能登半島の特に奥能登地域では甚大な被害が生じている。住家や道路、水道などのインフラも大きなダメージを受け、住家を離れての避難生活や仮設住宅へ入居する住民も少なくない。公共路線バスについても、道の被災状況や運転手の確保が難しいことから、路線や停留場・ルートを絞っての運行を行っている。こうした中で、生活に必須な買い物、病院への通院などの交通手段の確保が重要となる。

○　このため、交通の需要を見極めながら関係各所と連携し、特に市街地から離れた仮設住宅とまちなかを結ぶ交通サービスを提供する仕組み構築のため、実証運行に取り組むこととする。

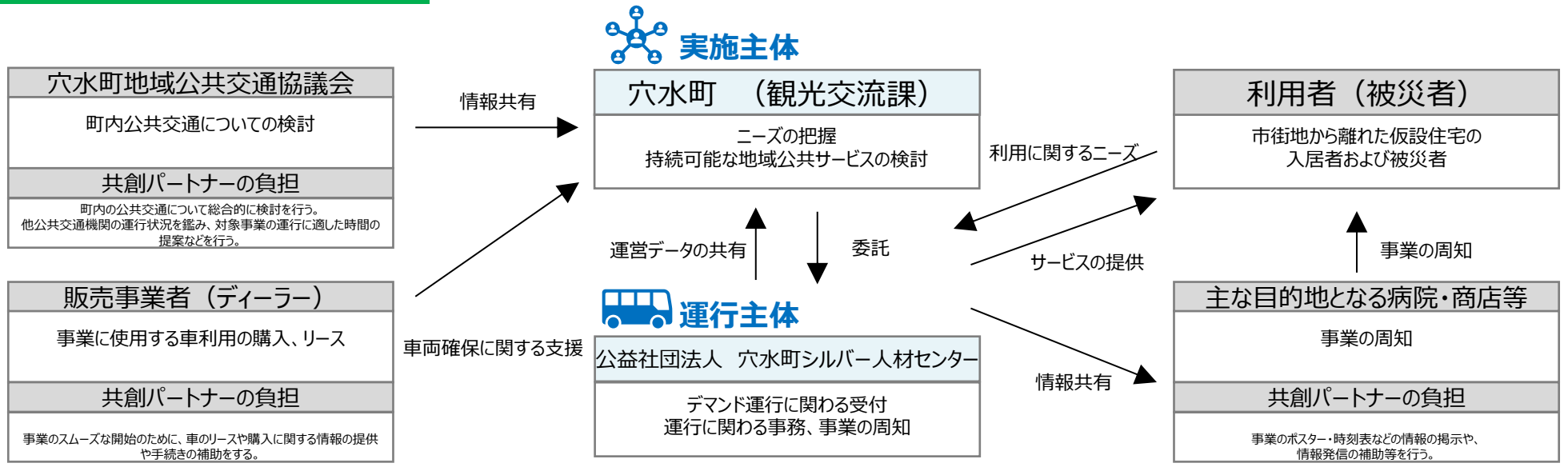
地域公共交通計画への位置づけ（位置づけ予定を含む）	有（予定） 穴水町地域公共交通協議会とは採択後情報共有し、今後の地域公共交通の位置づけについて協議する	**運輸局・運輸支局への事前相談**	北陸信越運輸局石川運輸支局
令和５年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無	無	令和6年能登半島地震により発生した課題に取り組むための実証プロジェクト	

被災地域における見守りバス運行実証事業の概要

応募様式A

穴水町　新・地域公共交通復興共創プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

（事業の概要）

○　現在運行中の交通機関（北鉄奥能登バス株式会社、穴水町外出支援バス（町住民福祉課）、市街地循環バス（町観光交流課・臨時運行））のカバーしきれない時間帯と地域について、１０人乗り程度の車両を確保し実証的にデマンド運行を行う。穴水町シルバー人材センターへ予約受付と運行を委託し、特に市街地から離れた仮設住宅と市街地を往復する。これにより、今後の路線需要の把握や、復興に向けた持続可能な地域交通サービスの仕組み作りを行う。

（地域の関係者との連携・協働）

○　町内で広く事業を行っている穴水町シルバー人材センターや、目的地となる病院や商店でも事業に関する広報を行うことで、利用者への周知を図りやすい。また、多くの人が訪れる市街地から離れた被災住民の生活基盤を確保するとともに、定期的に利用する一人暮らしなどの被災者の見守りにもつながる。

（地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性）

○　令和６年能登半島地震により既存の公共路線バス等は、路線や停留場・ルートを絞っての運行を行っている。便数やルートを絞ることにより、生活に必須な買い物、病院への通院などに使用する交通手段の選択の幅が狭まっている。そこで、既存の公共交通によるバス等が運行している時間以外に新たに交通手段を提供することで、住民の生活を支えるとともに既存の公共交通の利用をしやすい環境を整える。

被災地域における見守りバス運行実証事業の概要

応募様式A

穴水町　新・地域公共交通復興共創プラットフォーム

事業実施手順・スケジュール

町主体で補助申請を行い、車の販売・リースの手続き及び、運行開始に関わる周知を行う。
車の確保（10人乗り程度／購入までの間リースで対応）を行い早期に運行体制を整え、２ルート（市街地から離れた仮設住宅とまちなかを結ぶ）を運行する。既存の公共交通機関が運行していない空白の時間帯に市街地から離れた仮設住宅を２ルートでカバーし、各週２日ずつ、1日2往復の運行を行う。運行及び乗車予約の受付は穴水町シルバー人材センターが行い、関係各所においては事業の周知に努める。

運行実証期間中に利用状況及び町地域交通協議会等よりニーズや他公共交通機関の運行状況の把握を行い、持続可能な地域交通サービスの検討を行う。事業の周知を各協力機関でも行ってもらい、利用者へ情報発信を徹底する。

事業主体	2024年							2025年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
穴水町	ニーズの把握、復興に向けた持続可能な地域交通サービスの検討									
公益社団法人 穴水町シルバー人材センター	運行、デマンド運行に関わる受付、運行に関わる事務 事業の周知									
主な目的地となる病院・商店等	事業の周知									
穴水町地域公共交通協議会	公共交通に関わる情報の共有						公共交通に関わる情報の共有			
販売事業者（ディーラー）	事業に使用する車の購入・リースなどの確保に関する支援 （購入までの間はリースで対応）									

被災地域における見守りバス運行実証事業の概要

応募様式A

穴水町　新・地域公共交通復興共創プラットフォーム

取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

○　令和６年能登半島地震により能登半島の特に奥能登地域では甚大な被害が生じており、公共路線バスについても、道の被災状況や運転手の確保が難しいことから、路線や停留場・ルートを絞っての運行を行っている。既存の公共交通が運行していない時間に運行することにより、住民の移動に関する選択肢を広げ利便性の向上を見込む。

（地域全体に及ぶと想定される効果）

○　震災により道路の破損や、運転手の確保が難しく、震災前の公共交通の形態にすぐに戻ることは難しい。さらに、市街地から離れると病院・診療所や買い物ができる商店がない地区も多く、日々の暮らしや通院に難がある。このことから、市街地から離れた地区に居住する被災住民の重要な交通手段となると見込まれる。市街地から離れた被災住民の交通手段が安定することで、仮設住宅の入居者だけではなく住宅の補修をして避難先からの帰宅を検討する住民にとっても地域に戻る判断の一助になる。また、出かけやすい環境を整えることで、一人世帯などの目が届きにくい住民の見守りにもつながる。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上		貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
○	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	○	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

○　ニーズを把握し、運行・利用頻度によって利用可能な県・国補助金を活用しながら持続可能な運行形態を予定。
今後、他公共交通機関の運営状況に合わせて、運賃の徴収も検討する。許可・登録を要する有償運送になる際は、運行する穴水町シルバー人材センターと協議し運転手の確保に勤める。

資金面	利用可能な県・国補助金を活用し、穴水町より委託または補助での運営
人材面（運転手の確保）	運行形式の変更や増便など、運転手の確保が必要になった場合は、人材育成を視野に穴水町シルバー人材センターと協議する （講習の受講の呼びかけや、資格を持った運転手の確保）